



アーティスト・イン・レジデンス 夏季プログラム 2022

# 『いつもあなたを見ている』

美術作家 | さとうりさ

by : Risa Sato



summer program 2022

さとうりさが曾爾村の印象をもとに制作した布によるオブジェ作品《いつもあなたを見ている》。それを土台に曾爾村立曾爾小中学校生徒と、曾爾村の染め技術ユニット“ソニゾメ”とのワークショップ《わたしだって見えています》が実施されました。完成したコラボレーション作品の展示に是非お越しください。

会期 2022.9.17 sat - 11.13 sun

時間 10:00 - 17:00

入場料 無料

会場 そののわの台所katte

主催 | AIRSONI

AIRSONIは、国内外の料理人や芸術関係者、研究者が曾爾村に滞在し、地域固有の文化や知識を活かしたプロジェクトを展開するアーティスト・イン・レジデンス・プログラムです。

制作 | さとうりさ

協力 | 曾爾村立曾爾小中学校、ソニゾメ

助成 | そののわ GLOCAL

いつもあなたを見ている



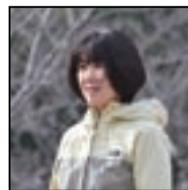
わたしだって見ています

## Concept

よくわからないけどすごい量感のものがすぐそばに居て、こちらをずっと見ている。これは今年の6月、レジデンスプログラムの下見として曾爾村に初めて滞在した際、最も強く受けた印象だ。2泊3日の滞在を終え、自宅に戻っても私の頭のなかには山々の残像がくっきりとあった。人と山、その間に存在する“何か”を知りたい。そのときの印象と、地図、写真をもとに制作した、曾爾村のオブジェ(およそ6500分の1縮尺)が、今回のレジデンスプログラムの土台になる。縮小され、生地を縫い合わせて制作された山々は、雄々しさを無くし、柔らかな起伏となった。2週間のレジデンスでは曾爾村の人々の協力を得て、現在進行形の人と山との関係性を、このオブジェのなかに記していけたらと思っている。作品のタイトル《いつもあなたを見ています》は、山々からの人々への言葉でもあり、人々から山々への言葉でもある。それに呼応するように、予定しているワークショップのタイトルは《わたしだって見ています》とした。この対になったタイトルが、村の人々の心の深いところにある山々との対話を浮き上がらせてくれるのではないかと妄想している。

artist

## Risa Sato



## Profile

1972年東京都生まれ。1999年東京藝術大学大学院美術研究科デザイン専攻修了。神奈川県を拠点に活動。抽象的でありながらも親しみを感じさせる大型のソフト・スカルプチャーを、屋内外を問わず公共のスペースに出現させ、作品を通じたコミュニケーションの可能性を考察する。レジデンスプログラムやワークショップを通じた共同制作なども数多い。公共のスペースにしか存在しえない個人的体験、その探求が制作活動の動機となっている。「UNMANNED無人駅の芸術祭／大井川」(静岡、2018 - 2022)、「ごちない会話への対応策 - 第三波フェミニズムの視点で」(金沢21世紀美術館、2021)、「ヨコハマトリエンナーレ2020 AFTERGLOW 光の破片をつかまえる」(横浜美術館、神奈川)、「スリシュティ・インテリム2019」(インド)等に出展。第70回 横浜文化賞文化・芸術奨励賞受賞。